

平成30年～令和3年度  
 劇場・音楽堂等機能強化推進事業  
 (劇場・音楽堂等機能強化総合支援事業)  
 自己点検報告書

団 体 名	公益財団法人 川崎市文化財団		
施 設 名	川崎シンフォニーホール (ミュージザ川崎シンフォニーホール)		
助 成 対 象 活 動 名	～音楽で人と人をつなぐ～ 音楽によるまちづくり推進事業		
助 成 期 間	5		(年間)
内 定 額	平成30年度	59,235	(千円)
	平成31年度	54,482	
	令和2年度	53,917	
	令和3年度	52,540	

# 1. 事業概要

## (1) 事業計画の概要

全体図（概念図）

（事業名）～音楽で人と人をつなぐ～ 音楽によるまちづくり推進事業

ミューザのミッション

「音楽のまち・かわさき」のシンボルとして、音楽で  
すべての人がつながるまち～共生社会の実現～

を目指す

### 【頂点】

最高峰の音楽芸術の創造・発信

フランチャイズ・オーケストラとともに国際的レベルの音楽創造・発信を推進する

我が国のオーケストラ文化発展への貢献



### 【広がり】

音楽のすばらしさと演奏の喜びを味わう

コンサートへの市民参加の増加



### 【まちのシンボル】

「音楽のまち・かわさき」を国内外に発信  
音楽を通じてシビックプライドを高める

まちのシンボルとしての認知度向上



### 【未来】

子ども達の感性豊かな心の成長と豊かな人生

子どもたちが音楽と関わる機会の増大



### 【多様性】

多様性を認め合う社会、誰もが文化芸術に親しむ

コンサートに出かけやすい環境づくり

多様な人々による演奏参加機会の創出



(2) 令和3年度実施事業一覧

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	フェスタ サマーミュージア KAWASAKI 2021	2021年7月22日 ～8月9日 ※	管弦楽：東京交響楽団、オーケストラ・アンサンブル金沢、東京都交響楽団、読売日本交響楽団、N響メンバーによる室内合奏団、東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団、神奈川フィルハーモニー管弦楽団、京都市交響楽団、東京ニューシティ管弦楽団、日本フィルハーモニー交響楽団 ほか	目標値	25,000
		ミュージア川崎シンフォニーホール		実績値	17,107 (別途配信 16,800 視聴)
2	ホールアドバイザー秋山和慶企画	2021年4月3日 (土)	指揮：秋山和慶、管弦楽：東京交響楽団、司会：中井美穂、歌：岡幸二郎、吉岡小鼓音 ピアノ：奥田弦	目標値	1,300
		ミュージア川崎シンフォニーホール		実績値	1,307
3	ホールアドバイザー小川典子企画	2022年2月26日(土) ※	ソプラノ：市原 愛、ピアノ：小川典子、朗読：江原陽子、プレトーク出演：奥田佳道(音楽評論家)	目標値	600
		ミュージア川崎シンフォニーホール		実績値	391
4	パイプオルガン・コンサート・シリーズ	2021年10月2日 ～2022年2月19日 ※	パイプオルガン：デイヴィット・ティッターリントン(中止)、山口綾規、松居直美、廣江理枝、梅干野安未 ほか	目標値	1,995
		ミュージア川崎シンフォニーホール		実績値	2,077
5	モーツァルト・マチネ	2021年5月1日 ～2022年3月6日 ※	指揮：太田弦、鈴木優人、ジョナサン・ノット、井上道義 管弦楽：東京交響楽団 ほか	目標値	3,044
		ミュージア川崎シンフォニーホール		実績値	3,717
6	MUZA ジルベスターコンサート2021	2021年12月31日 ※	指揮：秋山和慶、ピアノ：牛田智大、ヴァイオリン：吉村妃鞠、チェロ：佐藤晴真、管弦楽：東京交響楽団	目標値	1,300
		ミュージア川崎シンフォニーホール		実績値	1,922
7	ミュージア・ワークショップ・インターン養成事業	通年※	アシスタント：澤田知世	目標値	インターン2/WS 20
		ミュージア川崎シンフォニーホール		実績値	アシスタント1

8	若手支援事業	通年※	オルガン：加藤慶子 ほか	目標値	出演 20/ 入場 300
		ミュージア川崎シンフォニーホールほか		実績値	出演 4/ 入場 130
9	音楽大学フェスティバル・オーケストラ演奏会	2022年3月26日※	指揮：下野竜也 管弦楽：音楽大学フェスティバル・オーケストラ（首都圏9音楽大学選抜メンバー）	目標値	出演 200/ 入場 1,400
		ミュージア川崎シンフォニーホール ほか		実績値	出演 200/ 入場 744
10	【公演中止】ジュニア・オーケストラ育成	中止※	新型コロナウイルス感染症の影響および、運営母体である昭和音楽大学と協議の結果、運営が困難であると判断し、中止となった。	目標値	出演 50/ 入場 500
		ミュージア川崎シンフォニーホールほか		実績値	
11	音の放課後プロジェクト；人材育成部門	2021年4月～ ※	ジュニア・プロデューサー（川崎市内小学生6名） ほか	目標値	112
		ミュージア川崎シンフォニーホールほか		実績値	50
12	音の放課後プロジェクト；普及啓発部門	2021年5月4日5日 ※	オルガン：大木麻理 ファシリテーター：マイケル・スペンサー ほか	目標値	1,732
		ミュージア川崎シンフォニーホールほか		実績値	420 (オンライン6)
13	ミュージアの日 2021	2021年7月1日 ※	指揮：秋山和慶 管弦楽：東京交響楽団 ほか	目標値	10,000 (内公演 1500)
		ミュージア川崎シンフォニーホール ほか		実績値	5,772 (内公演 1,078)

14	地域連携・アウトリーチ 公演事業	通年 ※	ピアノ：小川典子 ほか	目標値	①450 ②600 ③30
		ミュージア川崎シンフォ ニーホールほか		実績値	①403 ②350 ③27

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

### (3) 令和2年度実施事業一覧

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	モーツァルト 歌劇「フィガロの結婚」～庭師は見た!～	2020年9月19日 ※	歌劇「フィガロの結婚」～庭師は見た!～ 指揮・総監督：井上道義 演出：野田秀樹 アルマヴィーヴァ伯爵：ヴィタリ・ユシユマノフ、伯爵夫人：ドルニオク綾乃、スザナ（スザンナ）：小林沙羅、フィガロ（フィガロ）：大山大輔 ほか	目標値	1,200
		ミュージザ川崎シンフォニーホール		実績値	514
2	GoGB プロジェクト	通年※	① 『歓迎ソング』 内容を変更して実施 ② マイケル・コリンズ クラリネット・ワークショップ【中止】	目標値	参加150、入場1,500
		ミュージザ川崎シンフォニーホールほか		実績値	70 (2700 視聴)
3	【公演中止】 ホールアドバイザー 秋山和慶 企画	中止	新型コロナウイルス感染症の影響により公演を中止した	目標値	1,300
		ミュージザ川崎シンフォニーホール		実績値	0
4	ホールアドバイザー小川典子企画	2020年11月7日 (土) ※	ピアノ：小川典子、プレトーク：下田幸二	目標値	600
		ミュージザ川崎シンフォニーホール		実績値	463
5	パイプオルガン・コンサート・シリーズ	2020年10月25日 ～2月20日 ※	パイプオルガン：デイヴィット・ティッターリントン（中止）、富田一樹、大木麻理 ほか	目標値	2,353
		ミュージザ川崎シンフォニーホール		実績値	1,084
6	フェスタ サマーミュージザ KAWASAKI 2020	2020年7月23日 ～8月10日 ※	管弦楽：東京交響楽団、NHK 交響楽団、神奈川フィルハーモニー管弦楽団、読売日本交響楽団、群馬交響楽団、東京フィルハーモニー交響楽団、新日本フィルハーモニー交響楽団、東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団、日本フィルハーモニー交響楽団、ほか	目標値	22,000
		ミュージザ川崎シンフォニーホール		実績値	8,520 (33,609 視聴)
7	モーツァルト・マチネ	2020年5月23日 ～2021年3月6日 ※	管弦楽：東京交響楽団 指揮：井上道義（中止）、沼尻竜典 弾き振り：大谷康子、小菅優 ほか	目標値	4,800
		ミュージザ川崎シンフォニーホール		実績値	1,746
8	地域連携・アウトリーチ公演事業	通年 ※	ピアノ：小川典子 ほか	目標値	①450/②600/ ③30
		ミュージザ川崎シンフォニーホールほか		実績値	①160/②2,800 視聴/③4
9	ミュージザ・ワークショップ・インターン養成事業	2021年2月14日※	マイケル・スペンサー ほか	目標値	インターン3/ WS20
		ミュージザ川崎シンフォニーホールほか		実績値	20 (オンライン)

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
10	【事業中止】若手支援事業	中止※	新型コロナウイルス感染症の影響により事業を中止した	目標値	出演 20 / 入場 300
		ミュージザ川崎シンフォニーホールほか		実績値	0
11	【公演中止】音楽大学フェスティバル・オーケストラ演奏会	中止※	新型コロナウイルス感染症の影響により公演を中止した	目標値	出演 200、入場 1,400
		ミュージザ川崎シンフォニーホールほか		実績値	0
12	【公演中止】ジュニア・オーケストラ育成	中止※	新型コロナウイルス感染症の影響により公演を中止した	目標値	出演 50、入場 500
		ミュージザ川崎シンフォニーホールほか		実績値	0
13	音の放課後プロジェクト； 人材育成部門	2020年4月～ ※	新型コロナウイルス感染症の影響により変更・中止した	目標値	112
		ミュージザ川崎シンフォニーホールほか		実績値	22(オンライン)
14	音の放課後プロジェクト； 普及啓発部門	2020年4月～ ※	新型コロナウイルス感染症の影響により変更・中止した	目標値	1,732
		ミュージザ川崎シンフォニーホールほか		実績値	49,715 視聴
15	MUZA ジルベスターコンサート 2020	2020年12月31日 ※	指揮：下野竜也 ナレーション・バリトン：宮本益光 ピアノ：小川典子 ヴァイオリン：南 紫音 管弦楽：東京交響楽団	目標値	1,354
		ミュージザ川崎シンフォニーホール		実績値	864
16	ミュージザの日 2020	2020年7月1日 ※	新型コロナウイルス感染症の影響により変更・中止した	目標値	10,000 (うち公演 1500)
		ミュージザ川崎シンフォニーホール		実績値	1,089 視聴

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(4) 平成31年度実施事業一覧

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	フランチャイズ・オーケストラ・プロジェクト ミュージア川崎シンフォニーホール15周年記念事業	2019年10月5、6日	『シェーンベルク「グレの歌」』 指揮：ジョナサン・ノット 管弦楽：東京交響楽団 他	目標値	1,784
		ミュージア川崎シンフォニーホール		実績値	2,873
2	ホールアドバイザー 秋山和慶&佐山雅弘企画	2019年4月7日	指揮：秋山和慶 ヴァイオリン：服部百音 ヴォーカル：清水アキラ 他	目標値	931
		カルッツかわさき		実績値	1,038
3	ホールアドバイザー 小川典子企画	2019年9月28日	ピアノ：小川典子 トーク：高坂はる香	目標値	600
		ミュージア川崎シンフォニーホール		実績値	511
4	パイプオルガン・コンサート・シリーズ	2019年9月8日他	パイプオルガン：アルフィーロ・ガスト、大木麻理、青木早希 他	目標値	2,353
		ミュージア川崎シンフォニーホール		実績値	2,357
5	フェスタ サマーミュージア KAWASAKI 2019	2019年7月27日～ 8月12日	管弦楽：東京交響楽団、新日本フィルハーモニー交響楽団、東京都交響楽団など合計10団体 他	目標値	28,000
		ミュージア川崎シンフォニーホール 他		実績値	27,278
6	モーツァルト・マチネ	2019年8月24日 他	指揮：沼尻竜典、ジョナサン・ノット、佐藤俊介、原田慶太楼 他	目標値	4,000
		ミュージア川崎シンフォニーホール		実績値	3,227
7	地域連携・アウトリーチ公演事業	2019年4月～ 2020年3月	ピアノ：小川典子 打楽器：Tuk-Pak 他	目標値	各回100
		川崎市立中央支援学校 他		実績値	1,156
8	ミュージア・ワークショップ・インターン	2019年4月～ 2020年3月	講師：マイケル・スペンサー 他	目標値	36
		ミュージア川崎シンフォニーホール 他		実績値	27
9	若手支援事業	2019年5月～ 2020年3月	ピアノ：黒沼香恋 他	目標値	80
		ミュージア川崎シンフォニーホール		実績値	364
10	※公演中止 音楽大学フェスティバル・ オーケストラ演奏会	2020年3月28日	指揮：井上道義 管弦楽：音楽大学フェスティバル・ オーケストラ（首都圏9音楽大学選 抜メンバー）	目標値	1,390
		ミュージア川崎シンフォニーホール		実績値	0
11	ジュニア・オーケストラ育成	2019年4月～8月	指揮：江上孝則 管弦楽：かわさきジュニア・オーケ ストラ 他	目標値	700
		ミュージア川崎シンフォニーホール 他		実績値	795
12	音の放課後プロジェクト； 人材育成部門	2019年4月～ 2020年3月	ジュニア・プロデューサー（川崎市 内小学生12名） 他	目標値	112
		ミュージア川崎シンフォニーホール		実績値	151
13	音の放課後プロジェクト； 普及啓発部門	2019年5月4日 他	講師：マイケル・スペンサー オルガン：大木麻理 他	目標値	1,732
		ミュージア川崎 シンフォニーホール		実績値	3,368

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
14	MUZA ジルベスターコンサート 2019	2019年12月31日	指揮：秋山和慶 ヴァイオリン：成田達輝 声楽：大山大輔、小林沙羅 他	目標値	1,354
		ミュージア川崎 シンフォニーホール		実績値	1,452
15	ミュージアの日 2019	2019年7月1日	指揮：秋山和慶 管弦楽：東京交響楽団 司会：朝岡 聡 他	目標値	1,500 (10,000)
		ミュージア川崎 シンフォニーホール		実績値	1,243 (12,875)
16	バリアフリー対応	2019年4月～ 2020年3月	各事業で実施	目標値	
		ミュージア川崎 シンフォニーホール		実績値	
17	多言語対応	2019年4月～ 2020年3月	各事業で実施	目標値	
		ミュージア川崎 シンフォニーホール		実績値	

(5) 平成30年度実施事業一覧

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場			
1	フランチャイズ・オーケストラ・オペラ・プロジェクト	2018年12月7日	歌劇「フィガロの結婚」指揮/ハンマーフリーゲル：ジョナサン・ノット 他	目標値	1,390
		ミュージザ川崎シンフォニーホール		実績値	1,514
2	ホールアドバイザー秋山和慶 & 佐山雅弘企画	2018年4月7日	指揮：秋山和慶ピアノ：佐山雅弘 管弦楽：東京交響楽団 他	目標値	1,550
		ミュージザ川崎シンフォニーホール		実績値	1,546
3	ホールアドバイザー小川典子 企画	2018年9月29日	ピアノ：小川典子	目標値	600
		ミュージザ川崎シンフォニーホール		実績値	673
4	パイプオルガン・コンサート・シリーズ	2018年7月13日 他	パイプオルガン：トン・コープマン、松居直美、大木麻理 他	目標値	2,610
		ミュージザ川崎シンフォニーホール		実績値	2,500
5	フェスタ サマーミュージザ KAWASAKI 2018	2018年7月21日～8月12日	管弦楽：東京交響楽団、新日本フィルハーモニー交響楽団、東京フィルハーモニー交響楽団 他	目標値	28,000
		ミュージザ川崎シンフォニーホール		実績値	25,584
6	モーツァルト・マチネ	2018年4月28日 他	指揮：高関 健 他管弦楽：東京交響楽団	目標値	4,000
		ミュージザ川崎シンフォニーホール		実績値	3,802
7	スペシャル・ナイト・コンサート90	2018年5月9日 他	SLIDE MONSTERS (トロンボーン・アンサンブル) 他	目標値	1,521
		ミュージザ川崎シンフォニーホール		実績値	2,668
8	ファシリテーター養成講座	2018年5月3日 他	講師：マイケル・スペンサー他	目標値	100
		ミュージザ川崎シンフォニーホール 他		実績値	24
9	若手支援事業	2018年5月～8月	ピアノ：黒沼香恋他	目標値	100
		ミュージザ川崎シンフォニーホール		実績値	432
10	音楽大学フェスティバル・オーケストラ	2019年3月31日	指揮：小林研一郎管弦楽：音楽大学フェスティバル・オーケストラ (首都圏9音大選抜メンバー)	目標値	1,390
		カルッツかわさき		実績値	1,261
11	ジュニア・オーケストラ育成	2018年7月31日 他	指揮：江上孝則管弦楽：かわさきジュニア・オーケストラ 他	目標値	500
		ミュージザ川崎シンフォニーホール 他		実績値	833
12	音の放課後プロジェクト；人材育成部門	2018年4月～11月	ジュニア・プロデューサー (川崎市内小学生12名) 他	目標値	100
		ミュージザ川崎シンフォニーホール		実績値	363
13	音の放課後プロジェクト；普及啓発部門	2018年5月4日 他	講師：マイケル・スペンサー他	目標値	3,500
		ミュージザ川崎シンフォニーホール		実績値	4,360
14	MUZA ジルベスター・コンサート	2018年12月31日	指揮：秋山和慶ヴォーカル：福井晶一、笠松はる他	目標値	1,354
		ミュージザ川崎シンフォニーホール		実績値	1,958

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
15	ミュージアの日 2018	2018年7月1日	指揮：秋山和慶管弦楽：東京交響 楽団司会：朝岡 聡	目標値	1,500
		ミュージア川崎シンフォニ ーホール		実績値	1,559
16	地域連携事業	2018年4月～2019年3 月	ピアノ：小川典子 他	目標値	1,000
		神奈川県立中原養護学校 他		実績値	1,150

## 2. 自己評価

### (1) 妥当性 (平成30年～令和3年度 4か年分)

#### 自己評価

事業計画に必要な構成要素が有機的に連関し、当初の予定通りに事業が進められているか。

(ミッション) すべての人がつながるまち～共生社会の実現をめざす～

「音楽のまち・かわさき」のシンボルとして、川崎市の「総合計画」、「川崎シンフォニーホール条例」、「川崎市文化芸術振興条例」、「かわさきパラムーブメント推進ビジョン」や国の政策、法律に基づき、質の高い音楽文化の発信拠点として音楽の裾野の拡大と、音楽都市としてのブランド形成に寄与するとともに、近隣都市の市民、団体、企業等との地域連携や国内外の時代を担う音楽関係者を含めた人材育成、教育普及、そしてあらゆる人々が共に鑑賞できる場の創造と次の5つの柱に沿って事業計画を立てた。

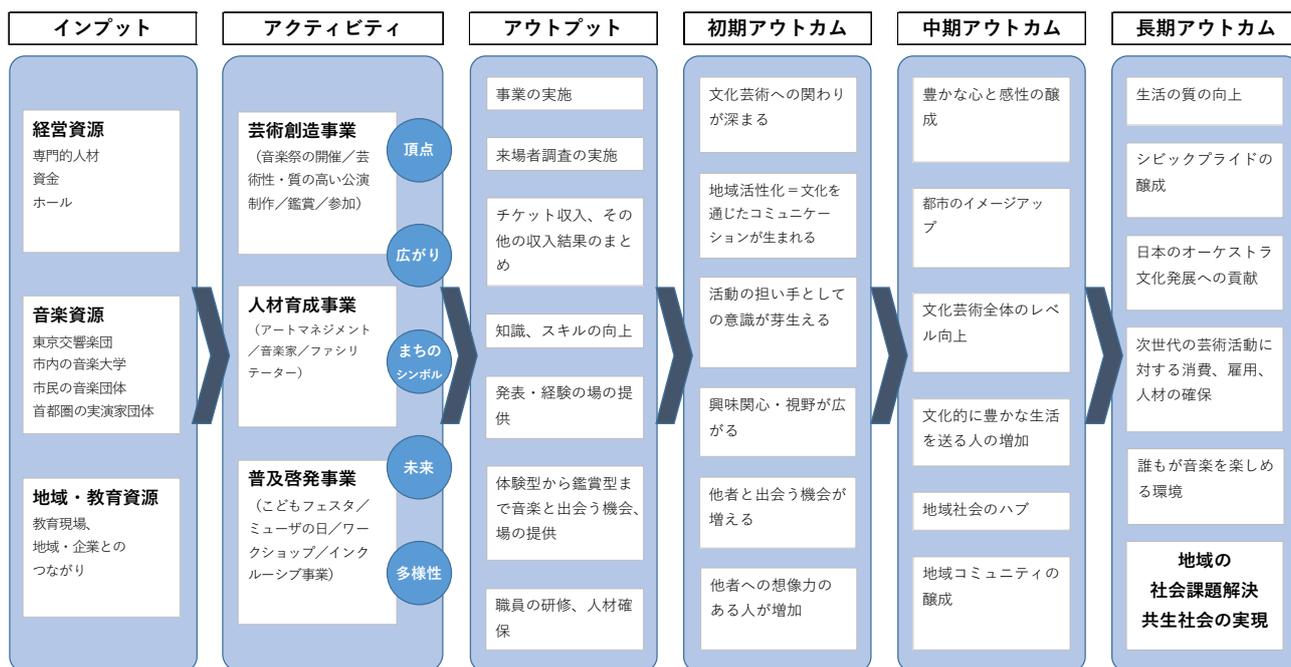
「頂点」「広がり」「まちのシンボル」「未来」「多様性」

平成30年度は事業全体を通して、当初の計画から大きな齟齬は生じることなく、事業を遂行することが出来た。平成31年1月から舞台設備等更新工事のため6か月間休館をし、7月1日にリニューアルオープンした。休館中も市内の他施設を使用するなどして計画通りの事業展開を行ってきた。しかし、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため令和2年3月以降の公演が自粛となり、助成対象事業においても公演中止が発生した。

その影響は、令和2年、3年度と続き現在に至っている。施設の休館、公演の中止等によるチケット代金や施設利用料・施設使用料の返還、感染症拡大防止対策用のガイドライン作成等、当初予定していなかったあらゆる対応を余儀なくされたが、適切かつ迅速に実施・対応することが出来たと考える。

また、大きな変更を余儀なくされた助成対象事業も早々に無観客公演でも実施し、CD制作とインターネット配信をいち早く実施し、客席数をはるかに超える約100,000人が視聴。テレビや新聞でも大きく取り上げられ、クラシック音楽の新しい楽しみ方、さらには収益力強化につながるのではと大きな話題となった。以降、「フェスタサマーミュージア」でも有観客+配信のハイブリット開催、子どもやファミリー向けに動画を作成しYouTube配信、オンラインでのワークショップ実施、リモート合唱団結成などを実施(詳細は後述)。当初の目標・目的を見失わず、日本を代表する劇場の一つとしての役割、文化芸術活動が制限されるなか、様々な工夫を凝らしながら絶えずお客様へ音楽を届けることを念頭に置き、「音楽のまち・かわさき」の灯を消さぬよう、また、お客様の安全を第一に配慮しながら、積極的に事業展開した。

#### ～音楽で人と人をつなぐ～ 音楽によるまちづくり推進事業 ロジックモデル



## 自己評価

助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。

前述の通り、アウトカム・目標設定の考え方は国及び川崎市の政策に基づき、地域の実情を踏まえ、事業計画とともに設定をした。実施出来た事業についてはコロナ禍での新たな取り組みとして大きく取り上げられるなどした。

平成 30 年度は、音楽雑誌の読者アンケート企画「好きな演奏会場」で全国第 2 位にランクされ、多くの音楽ファンから広く支持されていることがわかる結果が出た。これらは、世界的指揮者のサー・サイモン・ラトル氏が「世界最高の音響」と絶賛したハード面（音響設計）のすばらしさだけでなく、当施設の強みでもある、ブランディング、ホスピタリティ、さまざまな組織とパートナーシップを組んだ事業展開、それらすべてが支持され世界的に認知された結果と考える。

平成 31 年度は、開館 15 周年となる記念公演として、フランチャイズ・オーケストラ・プロジェクトとして「グレの歌」を開催。出演した東京交響楽団と音楽監督のジョナサン・ノットが第 32 回ミュージック・ペンクラブ音楽賞「オペラ・オーケストラ部門」を、東響コーラスが「室内楽・合唱部門」を受賞。いずれも本公演の成功が授賞理由として挙げられた。また、「音楽の友」誌『コンサート・ベストテン 2019』においても、国内企画最高の第 6 位にランクされ、ホールとフランチャイズ・オーケストラが長年共同で実施してきたあらゆる取り組みが大変意義深いものであったと認められたと考える。しかしながら、新型コロナウイルス感染症の影響による休館、事業の自粛がこの平成 31 年度の 2 月下旬から発生し、事業の変更を余儀なくされた。

令和 2 年度は、前述のとおり新型コロナウイルス感染症の影響による施設の休館、事業の自粛などにより、あらゆる物事が大きく変更せざるを得ない状況となった。しかし、ホールのメイン事業「フェスタ サマーミュージック KAWASAKI 2020」は、1 回目の緊急事態宣言解除後すぐに無観客配信を先行して計画したが、状況が緩和されたため観客も入れて実施する事を決断し、600 席限定とした有観客＋生配信の「ハイブリット開催」として実施。19 日間全 17 公演、感染者を出すことなく完遂した。日本のみならず世界中の音楽祭が中止になる中「ザルツブルク音楽祭」と並んで評価され、『復活の歌を響かせた各オーケストラ』（「MOSTLYCLASSIC」2020 年 11 月号）、『日本クラシック界「川崎の奇跡」』（「選択」2020 年 9 月号）など多くの新聞・雑誌に取り上げられ、さらには第 33 回ミュージック・ペンクラブ音楽賞クラシック部門で《功労賞》も受賞した。

同様に新型コロナウイルス感染症の影響によりオペラや合唱の入った公演の開催を慎重になっている中、感染症対策を十分に行い開催した「フィガロの結婚～庭師は見た！～」も、北九州、東京の 2 劇場と連携しながら無事全公演を終える事が出来た。これらの取り組みは文化的、社会的、経済的にも大変意義のあるものであったと考える。

なお、緊急事態宣言解除後の 6 月 16 日には、関係者のみで感染症対策を検証する「試演会」を実施、その後も川崎市健康安全研究所岡部信彦所長による新型コロナウイルス感染症予防の観点から寄せられた意見・コメントを踏まえて、国等の基準に上乗せしたホール独自のガイドラインを策定し、万全の対策で事業を実施した。

令和 3 年度も、新型コロナウイルス感染症の影響は続いており、平成 30 年に提出した本事業の 5 年計画を当初の予定通り実行できるかどうか非常に厳しい状況となった。変更を余儀なくされたものもありつつも、昨年度の経験を活かし、より充実した事業を展開していく事に努めた。その結果、「フェスタ サマーミュージック KAWASAKI 2021」は引き続き有観客＋生配信の「ハイブリット開催」をした。また、東京 2020 オリンピック・パラリンピックを一つの契機として取り組んできた「インクルーシブ事業」の一環として「かわさきドレイクミュージック・プロジェクト」に参加し、フィナーレ公演で障害児とともに作った作品「かわさき組曲」を発表。「音楽の友」誌の「忘れがたいこの 1 曲！」に選曲されるなど注目を集めた。令和 2 年度は開催することに注力していたが、令和 3 度はそこに「社会的意義」等を盛り込むことが出来た。

一方、近隣の劇場や団体、教育機関等と連携した人材育成、普及啓発事業についても、その地域における社会的課題などと向き合いながら、多角的な事業展開を行っている。特徴的な取り組みとして、地域連携、まちづくり事業に位置付けられている「ミュージアの日」は、コロナ以前は、10,000人を集める事業で、当ホールを中心として川崎駅周辺を回遊するイベントであり、社会的、経済的意義が大変高いものであった。しかしながら、緊急事態宣言発令後、多くの人を集めることが困難な状況となった。

そのような中でも、単に事業を中止するのではなく、安全を考慮して無観客の収録配信を行い、ステイホーム中の子どもがいる家庭を対象としたオーケストラ入門編を配信。視聴した障害児の保護者から「今までおとなしく座っていることが出来ず、ホールに行くことを躊躇していたが、はじめて1時間以上のコンサートを聴くことが出来た。これに続くサマーミュージアの1時間のシンフォニーもじっと聞くことが出来た。とても良い経験だった。」という感想をいただいた。「音の放課後プロジェクト；普及啓発部門」では、いつも会場に集まって行っていたワークショップを「音のワークショップ・オンライン」として開催。ロンドンのファシリテーターと日本の家庭にいる子どもたち、通訳がオンラインで集まり新しい体験を提供出来た。この取り組みについては、「ミュージア・ワークショップ・インターン」の「オンライン・シンポジウム」にて報告・ディスカッションを行った。

やむを得ず休館しなくてはならなかった期間も中止となった事業を配信に切り替えるなど、限られた状況の中でも劇場としての活動を止めることなく発信し続ける事が出来たのは、2011年の東日本大震災で2年間の休館を余儀なくされた際「ハードが無くてもソフトがある」「それを届ける、伝えるためにはどうしたらよいか」を最優先に考えるという精神が、人材の入れ替わりなどに影響を受けず、脈々と受け継がれてきた結果と考える。

そして、それが感染症対策に苦慮している全国の劇場・音楽堂等や演奏団体の一つの指針となれたのであれば大変大きな成果であり、大きな意義のある取り組みであったと考える。



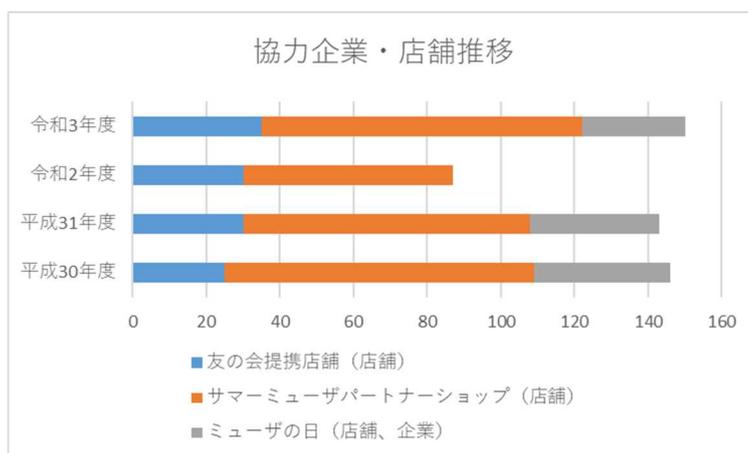
### ■コンサートへの市民参加の増加

#### ■まちのシンボルとしての認知向上

ホールが中心となって近隣の企業や商業施設と連携し、来場者サービスや事業展開の増加を目標としていたが、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、すべてが落ち込んだものの、令和3年度はコロナ以前を上回る店舗・企業数となり、ホールへの期待値の高さを感じる事が出来る。

市民が出演者として参加する市民音楽祭は新型コロナウイルス感染症の影響により軒並み中止となった。その期間に動画配信を多数企

画してステイホーム期間の地域住民へ少しでも音楽を届け、また、単なる配信だけではなく応募企画「みんなでボレロ」「リモート合唱団」(GoGB プロジェクト) など、参加型の企画も行った。



### ■子どもたちが音楽と関わる機会の増大

毎年希望者が多く抽選になる「ジュニア・プロデューサー」企画公演も、令和2年度は公演が中止となってしまったが、早期に内容を変更し、ワークシート形式にして、郵送、メールでのやりとりで実施した。令和3年は参加人数を調整し、感染症対策を施して無事に開催することが出来た。そのジュニア・プロデューサーを卒業した中高生たちは、「リトルミュージア」として活動。こちらはオンラインミーティングを駆使しながら活動を行った。実際に集まることが無くても「時間を共有できる場」があることがとても大切だと実感した。

鑑賞面では複数事業でU25 チケットを設定。年間の平均利用率は5%、事業によっては10~20%にのぼり、家族連れでの来場促進にもつながったと考える。パイプオルガンレッスンでは、音楽大学のオルガン専攻に進学、または目指す参加者も出ており確実に演奏家の人材育成につながっている。

また、教育機関との連携により、定期的な情報発信や、子ども達が音楽に関わる機会の提供を行っている。

音の放課後ニュース 年4回作成・1回につき約80,000部発行(市内小学校全児童に配布)

ロータリーシート 実施公演3回21人参加。(不登校の子どもを招待/協力:ロータリークラブ)

### ■コンサートに出かけやすい環境づくり

研修や様々な来場者のニーズを把握する調査を実施。令和2年度から「ダイバーシティスタッフ制度」を本格導入し、初めての方も安心して来場することが出来、繰り返し来場する方とはコミュニケーションを深める事で、サービスの向上につながっている。一方で、プライオリティゲストが複数いる場合、専任を一人置いても対応しきれないという現状もある。これを解消するために、専任スタッフのみならず全スタッフが対応出来るよう、引き続き研修を実施するなど、対応を検討している。

また、「ミュージアの日2020」では、自宅で過ごすことが増えている子ども・家族向けにウェルカムコンサートの無観客配信を実施したことについて、障害児の母から「今までじっとすることが出来ず、ホールに行くことを躊躇していたが、配信という形ではあるが、はじめてコンサートをじっと聞くことが出来た。とても良い体験だった」という感想をいただいたのは思いがけない成果であり、今後の取り組みの大きなヒントとなった。

### ■多様な人々による演奏参加機会の創出

ホームページのアクセシビリティの向上、ホールパンフレットの多言語化(5か国語)を推進。鑑賞機会の提供として、川崎市にある特別支援学校への訪問や、支援学校分教室と通常級の交流のある学校コンサート、NPO法人との連携により、学校や地域とアウトリーチ公演の実施が出来た。また、インクルーシブ・プログラムの実現へ向けて、連携をさらに強固なものにしながら実現に向けた取り組みを続けている

新型コロナウイルス感染症の影響により、学校現場も大変な中ではあったが、常日頃からの連携により、川崎市にある特別支援学校への訪問が実現した。

東京オリンピック・パラリンピック2020を契機に世界から日本に来る人々を歓迎するオリジナルソング「世界中から こんにちは そして ありがとう」(作詞・作曲 菅野由弘)を制作。本来は令和2年度の夏にコンサ

ートで初演予定だったが、コロナ禍により中止に。この作品は「こんにちは」「ありがとう」をたくさんの国の言葉で表現したものであった。「希望を胸に歩んでほしい」という前向きなメッセージの込められた作品となり、全国からの参加者によるリモート合唱はYoutubeにて公開中。

また、前述の通り「かわさきドレイクミュージック・プロジェクト」に参加し、障害のある人も無い人も、多様な人々による演奏参加機会の創出が実現し、さらにはそれが芸術性、社会性意義の高いものと評されたことは大きな成果であり、今後もこの取り組みをレガシーとして継続していく。

### (3) 効率性 (平成30年～令和3年度 4か年分)

#### 自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んでいるか。

#### ■平成30年度

事業期間は当初の計画通りに完了した。

#### ■平成31年度

13事業は計画通り、以下の4事業は新型コロナウイルスの影響で中止・変更があった。

[中止] No.10 音楽大学フェスティバル・オーケストラ

[変更] No.6 モーツァルト・マチネ 2020年3月公演を中止→無観客動画配信に切替え

No.7 地域連携・アウトリーチ公演事業 2020年3月ガレリアコンサートを中止

→2021年度動画配信を実施

No.9 若手支援事業 2020年3月公演を中止→無観客動画配信に切替え

変更の影響により次年度に延期になったものもあり、事業期間は長くなった。変更したもののうち特筆すべきはNo.9若手支援事業の2020年3月公演（オーディションにより選ばれたピアニストが東京交響楽団とコンチエルトを共演）で、コロナ禍ではじめて動画配信を実施、視聴総数は100,000回にのぼった。

また、事業期間は大きく変わらなかったものの企画内容の変更等のために新たな実務が発生した。

#### ■令和2年度

申請した16事業すべてで中止・変更があった。

[中止] No.3、No.10、No.11、No.12

[変更] 上記以外の公演（変更内容①公演日、②出演者、曲目等の公演内容、③配信、④販売座席 等）

この年も中止・変更により次年度に延期になったものがあり、事業期間は長くなった。

#### ■令和3年度

1事業は計画通り（No.2）、その他の13事業は新型コロナウイルスの影響で中止・変更があった。

[中止] No.10

[変更] 上記以外の公演（変更内容①公演日、②出演者、曲目等の公演内容、③配信、④販売座席 等）

この年も中止・変更が発生したが、できるだけ実施するため、または変更内容を最小限にするための選択肢をあらかじめ準備しながら進めることで大きな混乱なく実施できた。

#### ■4か年を通して

平成31年度以降は新型コロナウイルス感染症の影響を受け、中止・変更・延期をせざるを得なかった。その状況に合わせた内容に変更したため一部の事業は期間が長くなったものや、中止により期間が短くなったものもある。新型コロナウイルスの影響が日々変わるため適切な事業期間の検証は難しいが、感染症やその他有事における対応事例として、今後この内容を活かしていきたい。

## 自己評価

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んでいるか。

### ■平成 30 年度

事業費の要望比は 94.2%となり大きな乖離はなかったため、ほぼ予定通り執行できた。

- ・人材育成事業への参加者数が想定した 50%であったため、対象者へのアプローチやファシリテーター候補の絞り込み、効果的な広報活動の検証を行った。

### ■平成 31 年度

事業費の要望比は 91.5%となった。一部で新型コロナウイルスの影響により中止・変更が発生したため、おもに出演・音楽・文芸費において執行できないものがあり支出が抑えられた。

- ・開館 15 周年記念事業「グレの歌」はチケット収入が計画の 151%となり、事業費を効果的に活用しレベルの高い公演を実施できた。

### ■令和 2 年度

事業費の要望比は 76.1%となり要望時と大きく乖離した。緊急事態宣言による施設の休館・外出自粛、海外からのアーティストの入国制限による公演中止・変更、イベント制限による販売客席数の減少など、新型コロナウイルスの影響が大きく受けた。

総入場者数も目標値の 26%となり、目標を達成することが困難であった。

- ・人材育成事業はほとんどが中止となり、未来を担う人材へ経験や報酬を得る機会を提供できなかった。今後何らかの影響が出るのではと懸念する。

### ■令和 3 年度

事業費の要望比は 88.2%と、前年度に引き続き要望時と大きく乖離した。新型コロナウイルスの感染対策を講じつつも、海外からの入国制限、イベント制限などの影響は回避できず中止・変更が発生した。

### ■4 か年を通して

#### フェスタ サマーミュージア KAWASAKIの動向

- ・平成 30 年度 チケット販売枚数は過去最高を記録し、事業費を効果的に執行できた。  
期間中に台風の影響でチケット払戻しを行った。
- ・平成 31 年度 対象事業の入場者数は約 27,000 名となり過去最高と並ぶ結果を記録した。事業費の効果的な執行により、出演団体を首都圏から全国へ広げ、また重点的な広報活動を実施できたことによる結果が表れた。
- ・令和 2 年度 有観客+配信のハイブリッドで開催し、来場者は前年度の 1/4 以下になったが、配信は視聴総数約 33,000 回を記録。結果的にかつてない人数がコンサートを鑑賞した。一方、新型コロナウイルスの状況が日々変化し効果的な告知が行えず、広報費は余剰した。
- ・令和 3 年度 有観客+配信のハイブリッドで開催。販売座席の制限を解除したもののコロナ禍前には及ばなかった。外出自粛や「となりの席に人が座るのは嫌」というお客様も増えたことに起因する。また、減少した配信視聴者数については前年度に比べ配信コンテンツが激増し他との違いを明確に打ち出せず、今後の課題となった。

4 か年の前半はほぼ計画通りに事業を実施、事業費を執行してきたが、平成 31 年度の終わり頃から新型コロナウイルスの影響により計画の中止・変更を余儀なくされた。配信事業を展開する中で発生した予想外の経費は視聴料だけでは賄えず、別の助成金に申請し資金確保に努めた。

#### (4) 創造性（平成30年～令和3年度 4か年分）

##### 自己評価

事業計画の内容が、独創性、新規性、先導性に優れている（と認められる）か。

川崎市のフランチャイズ・オーケストラである東京交響楽団（以下、東響）は同団音楽監督ジョナサン・ノット氏のもとトップレベルの演奏を展開、開館15周年記念事業「グレの歌」は、「音楽の友」誌『コンサート・ベストテン 2019』に選出される等高い評価を得ている一方で、川崎市内学校や施設への巡回公演等も実施している。

世界的指揮者サー・サイモン・ラトル氏が「世界最高の音響」と絶賛したことが新聞に取り上げられ、さらに「日経グローバル」の公共ホール特集で取り上げられる等注目を集めた。クラシック音楽に適した残響設計をはじめ、様々な要素が世界最高水準のホールとして機能している。平成31年1月～6月に実施した舞台設備等更新工事では、スピーカーの入れ替えにより、全方向への適切な音響を確保、一部の客席において発生していた聞こえづらさが改善された。また、パイプオルガンの発音調整、一部パイプの整音作業も行い、音質改善を図った。

##### ■公演事業

平成30年度は、演奏会形式のオペラの枠を超えた独創的なプロジェクトや、朗読・芝居・音楽を融合させ、委嘱した新曲と、オルガン作品を組合せた独創的な内容となったクリスマス・コンサートなど新たな創造活動に取り組んだ。リトルミュージアはジュニア・プロデューサー経験者で構成され、より主体的に携わっている。このユニークな取組みは先導的で独創的と言える。

平成31年度は、開館15周年記念公演として、実演機会がなかなか無い巨大編成の「グレの歌」に挑戦し、パイプオルガン事業ではパントマイムと音楽を融合させ独創的な演出を施すなど、新たな創造活動に取り組んだ。「フェスタ サマーミュージア」では初めて地方のオーケストラとして仙台フィルハーモニー管弦楽団を迎え、“首都圏の音楽祭”から“日本の音楽祭”へと拡がり、高い水準の公演を実現。さらに、ホール周辺の店舗とパートナーシップを組み、地域の活性化にも寄与した。

パイプオルガンを有するホールとして、将来のオルガン界および音楽界を担う人材を育成することを目的とした活動にも力を入れている。

令和2年度、特筆すべきは、コロナ禍における「フェスタ サマーミュージア」の開催についてである。客席数は600席に制限しての開催となったが、「ハイブリッド形式」として、いち早く全公演でネット配信も実施した。休館中も中止となった事業を配信に切り替えるなど、限られた状況の中でも劇場としての活動を止めることなく発信し続ける事が出来た。そのような取り組みは、感染症対策に苦慮している全国の劇場・音楽堂等や演奏団体の一つの指針となれたのであれば大変大きな成果であり、大きな意義のある取り組みであったと考える。

令和3年度、引き続きコロナ禍での事業展開となるホールのシンボル事業である「フェスタ サマーミュージア KAWASAKI 2021」は「ハイブリッド開催」として、19日間全20公演を実施。フィナーレ公演では、日英の音楽家と川崎市内の特別支援学校の生徒たちとのコラボレーションにより創作された「かわさき組曲」が、他の正統的クラシック音楽の楽曲と並置して取り上げられたことは特筆すべきことであり、現代の新しいコンサートのあり方の一つとして提示することができた。誰もが社会参加できる環境を創り出す「かわさきパラムーブメント」の機運の中ではじまった、川崎市×東京交響楽団×ブリティッシュ・カウンシルによる、かわさきドレイクミュージック・プロジェクトを通して結実した「かわさき組曲」は、芸術作品として聴衆に披露された。また、この曲は、「音楽の友」誌「忘れがたいこの1曲！」に選出された。

ホールアドバイザーによる企画も復活し、ジャンルにとらわれない幅広い企画を生み出すことが出来た。（「オーケストラで楽しむ映画音楽」、「女の愛と生涯」、「パイプオルガン・コンサート・シリーズ」）

「ジルベスターコンサート」は、一流の若手ソリスト達を招集し、より多くの注目を集めることが出来、チケットは完売を達成した。

#### ■人材育成

「ワークショップ育成事業」は、平成31年度のミュージア・ワークショップ・インターン参加者から優秀な一名に、人材育成・普及啓発事業に携わってもらい、中心的な役割を果たした。

「若手支援事業」では、本来は令和2年度に実施予定であったが新型コロナウイルス感染症の影響で1年延期とした令和3年度に「ソリストオーディション」を実施した。

また、2年連続で中止となってしまった「音楽大学フェスティバル・オーケストラ演奏会」は、令和3年度は開催することができ、大学間の相互交流のみならず、東京芸術劇場・ミュージア川崎シンフォニーホールと2つの公共ホールと音楽大学が相互にレベルを上げるための貴重な機会でもあると改めて感じた。

ミュージア独自の企画である「ジュニア・プロデューサー」「リトルミュージア」（「音の放課後プロジェクト；人材育成部門」）は、学校行事も軒並み中止となる中で、感染症対策を徹底し、オンラインも活用しながら、充実した活動が出来た。これまでの活動実績から、他都市からの視察申し込みが最も多い事業である。

#### ■普及啓発

「ミュージアの日」は公演だけでなく、周辺企業や商業施設をホールが一つに繋げ、川崎駅周辺の賑わいを創出した。来場者数は平日開催にも関わらず延べ12,000名に上った。ホールが街づくりの”核”となることによって、普段は協働しない企業や商業施設が連携することができ、周辺の街の活性化につながり、経済効果もあった。この取り組みは全国でも類がなく、全国のホールから視察に来るなど注目されている。

「音の放課後プロジェクト；普及啓発部門」では、毎年好評を博しているが、新型コロナウイルス感染症の影響で令和2年度は中止となった「こどもフェスタ」を事前応募・抽選制の人数制限を行い、感染症対策を講じたうえで、ホールにも多くのご家族にご来場いただいた。ミュージア川崎シンフォニーホールの顔ともいえるパイプオルガンを様々な角度から知っていただく事ができ、お客様からもいづれも好評を博した。「音のワークショップ」は昨年度に続きオンラインで開催し、充実した内容となった。

## 自己評価

事業の実施によって、当該劇場・音楽堂等の国内外での評価の向上につながっている（と認められる）か。

特筆すべきは、新型コロナウイルス感染拡大防止のために中止となった公演の CD 録音、インターネットでの配信の取り組みについての反響である。大手新聞各社、テレビ局の取材・問い合わせが開館以来最大の反響であった。これは不測の事態からなる計らずも起きた反響ではあるが、クラシック音楽の新しい可能性について、業界全体、社会全体へ投げかける事ができ、劇場としての大きな役割を担う事ができた。また、「音楽の友」誌（2019年7月号）において実現した全国夏の音楽祭特集記事の巻頭対談「川崎市長×ホールアドバイザー小川典子（対談）」では、サマーミュージアの意義だけでなく、川崎市とミュージアの良好な関係をアピールすることに繋がった。

### ■視察・研修の受け入れ

音楽ホールの視察を受け入れ、ホールの施設や事業の説明等を行うことにより、他ホールや自治体職員等の方々に、施設やミュージア川崎シンフォニーホールにおける意欲的な事業内容の紹介とともに、川崎市における「音楽のまち・かわさき」や「パラムーブメント」を併せて紹介し、川崎市の取り組みを多方面にアピールすることが出来た。また、例年はバックステージツアー等を通じて多くの方々にミュージア川崎シンフォニーホールの魅力をアピールしてきたが、令和2年度以降、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、一般の方々による視察は見送った。

	平成30年度	平成31年度	令和2年度	令和3年度
行政・出資法人・学校	6 団体 (海外含む)	3 団体	4 団体	3 団体
ホール・音楽団体	2 団体	1 団体 60 名 ※1	103 名 ※2	2 団体
総合学習・職業体験	23 名	12 名	1 校	10 名
企業・団体等	1 団体	1 団体	8 名	1 団体
インターン	3 名	6 名	4 名	10 名 ※3

※1 避難訓練コンサート来場数

※2 「キープディスタンス」試演コンサート来場数

※3 コロナ禍につき、見学という形で受け入れた

### ■地域社会等に対する効果（観光、経済、教育、福祉等）

・ホール設置者である川崎市が設置した評価委員からは、77点～80点代でA～Bランクの評価を受けており、これは市の基準としては高いものとなっている。また、市幹部との定期的な会議の実施等、密な連絡・情報共有を心掛けている。

・市教育委員会、校長会との連絡会を設けることで、地域の教育とのつながりを強固なものにしている。

・市内のNPO法人や、地域のロータリークラブ等と連携・協力することで、子ども達の鑑賞機会の提供を継続的に実施している。

### ■外部からの評価

コロナ禍の中で、感染症拡大防止対策を実施しながら真夏のフェスティバルである「フェスタサマーミュージア KAWASAKI 2020」を聴衆を入れた公演とインターネットによる生配信のハイブリッド型で開催するなど、創意工夫を凝らして例年並みの公演規模で完遂したことに対し、日本のみならず世界中の音楽祭が中止になる中「ザルツブルク音楽祭」と並んで評価され、『復活の歌を響かせた各オーケストラ』（「MOSTLY CLASSIC」2020年11月号）、『日本クラシック界「川崎の奇跡」』（「選沢」2020年9月号）など多くの新聞雑誌に取り上げられた。

さらには2021年4月、第33回ミュージック・ペンクラブ音楽賞において「功労賞」を受賞。また、前年度に開催予定だった東京交響楽団との共催事業「名曲全集第155回」については、ミュージア川崎シンフォニーホールからの提案で無観客公演として開催し、CD化。このCDも同音楽賞の「オーディオ・パッケージ部門」を併せて受賞。

「フェスタ サマーミュージア KAWASAKI 2021」のフィナーレ公演では、日英の音楽家と川崎市内の特別支援学

校の生徒たちとのコラボレーションにより創作された「かわさき組曲」が、他の正統的クラシック音楽の楽曲と並置して取り上げられたことは特筆すべきであり、現代の新しいコンサートのあり方の一つとして提示することができた。誰もが社会参加できる環境を創り出すかわさきパラムーブメントの機運の中ではじまった、川崎市×東京交響楽団×ブリティッシュ・カウンシルによる、かわさきドレイクミュージック・プロジェクトを通して結実した「かわさき組曲」は、芸術作品として聴衆に披露された。また、この曲は、「音楽の友」誌「忘れがたいこの1曲！」に選出された。

#### ■外部講師派遣等

平成 30 年度

- ・「文化芸術による子供の育成事業に関する調査研究」委託先選定に関わる技術審査 竹内淳（事業部長）
- ・平成 30 年度戦略的芸術文化創造推進事業「フランチャイズ・オーケストラによる地域共生社会実現を目指した『音楽パートナーシップ』整備構築事業」 フィードバック座談会登壇 竹内淳（事業部長）、前島和樹（広報営業課長）
- ・日本音楽芸術マネジメント学会 第 11 回冬の研究大会 シンポジウム 2 「文化芸術への助成制度を考える」 パネリスト：竹内淳（事業部長）
- ・一般財団法人地域創造 文化政策幹部セミナー 講師：竹内淳（事業部長）
- ・障害者の舞台芸術表現活動・鑑賞支援プラットフォーム構築に向けて 第 1 回シンポジウム「参加につながる情報発信」 パネリスト：山田里子（事業課係長）

平成 31 年度

- ・劇場の未来を考える 課題解決型シアターマネジメント FINAL 国際シンポジウム「館長会議」  
登壇者：竹内淳（事業部長）、取り組み事例発表：山田里子（事業課課長補佐）
- ・『ミエ・アート・ラボ』チャレンジ～あきらめさせない～  
講師：山田里子（事業課課長補佐）

令和 2 年度

- ・政策研究大学院大学公共政策プログラム文化政策コース  
劇場活動にかかる評価リテラシー育成のための教育プログラム開発、自己評価ガイドブックの作成及び調査アプリの開発「自己評価の事例：結果をどう生かすか」 講師：竹内淳（事業部長）
- ・「全国劇場・音楽堂等職員アートマネジメント研修会 2021」  
劇場・音楽堂からのオンライン配信の試みと今後の可能性 講師派遣：竹内淳（事業部長）
- ・日本音楽芸術マネジメント学会パネルディスカッション  
「with/after コロナ時代の創造を考えるー動画配信の試み」  
フェスタサマーミュージック KAWASAKI 2020  
有観客およびライブ映像配信によるハイブリッドでの開催について 登壇者：前田明子（事業企画課係長）

令和 3 年度

- ・劇場・音楽堂等連絡協議会 第 1 回 劇場法 10 年 連続シンポジウム  
「劇場法 10 年、日本の実演芸術の進行への貢献とこれからの 20 年」事例発表 講師：山本浩（事業制作課長）
- ・昭和音楽大学アートマネジメント人材育成事業 実演舞台芸術プロデューサー養成講座  
「実演舞台芸術と ICT」  
インターネット時代の広報～オウンドメディアの活用と実践 前田明子（事業企画課係長）

■観客、参加者等の反応（鑑賞者アンケート含む）

【友の会会員】（令和4年4月30日現在）

- ・有料会員 4,246名 …毎月DM発送
- ・無料ウェブ会員 46,641名

【公式ウェブサイト】（令和3年4月1日～令和4年3月31日）

- ・ユーザー 437,731名
- ・年間ページビュー 2,687,002件 ※うち約10%は海外からのアクセス

【SNS フォロワー数】（※令和2年度→令和4年4月1日時点の数字）

Youtube（チャンネル登録者数）	： 1,400人→2270人
Twitter	： 9,573人→11,000人
FaceBook	： 5,972人→6,241人
Instagram	： 1,092人→1,408人

- ・コロナ以降に実施した動画配信の総視聴回数 413,753回（55本の動画制作）（令和3年1月25日現在）
- ・鑑賞者アンケートは、年間を通じてフォーマットを統一、第三者機関の分析により多角的にニーズを明らかにしていく。友の会会員に対しては2年に一度調査を実施、報告することでニーズを把握し相互的な関係を維持している。

## (5) 持続性 (平成30年～令和3年度 4か年分)

### 自己評価

事業計画を通じて組織活動が持続的に発展する(と認められる)か。

#### ■ (事業運営) 充実した主催事業の実施

・ ミューザのミッションのもと、「頂点」「広がり」「まちのシンボル」「未来」「多様性」をふまえた多様な主催事業を継続的に計画・実施することにより、コロナ禍でも多くの「ミューザファン」を継続して確保することができた。

※ (参考) 友の会会員数 (平成29年度: 4,139人 → 令和3年度: 4,229人)

・ 申請時には予期せぬ出来事であった新型コロナウイルス感染症拡大中でも、ミッションをもとに「今、できることを」テーマに、初の試みである「生音+ライブ生配信のハイブリッド型音楽祭」の開催や動画配信など、事業内容をアップデートしながら継続して実施したことにより、新型コロナウイルス感染症拡大の中でも、人数制限のある中、多くのホールファンのお客様にご来場いただく事ができた。

※ (参考) 主催共催公演入場者率 (平成29年: 74% → 令和3年度: 76%)

#### ■ (経営戦略) (ネットワーク構築)

##### ① 収入の確保

・ 主催公演来場者や施設利用者へお客様アンケートを実施し、集計結果や日々の利用者からの声を通じて、お客様の客層や傾向の分析、事業やサービス提供内容を検証し、その都度、改善を図ったことにより、高い入場者率や施設利用率を維持確保した。

その結果、ミューザファン(リピーター)の継続的確保につながり、安定した入場料収入や施設利用料を確保することができた。

##### ② 課題の明確化と情報の共有

・ 四半期毎に、各課による「課題と重点取組」を作成・検証することによりPDCAを実施し、全職員にて情報共有することで、全体での課題の把握、認識の統一を行い、ビジョンや目標を達成した。

・ 新たな課題に対しては、課を超えたプロジェクトチームを作成するなどネットワークを構築し、事業計画の更新・サービス向上を図った。

(プロジェクト例: サービスアップ、危機管理、新型コロナウイルス感染症対策、周年記念事業企画など)

##### ① イレギュラーな事態への対応

・ 世界的な新型コロナウイルス感染症の拡大という、当初では想定していなかった事態が発生し、施設の休館、公演の中止等によるチケット代金や施設利用料・設備使用料の返還、感染症拡大防止対策用のガイドライン作成、施設の改善、備品の設置等、様々なイレギュラー対応を余儀なくされたが、状況に応じた事業内容の変更や、対応に伴う費用や機会損失の補填等の財政的支援についても設置者である市と綿密な協議を重ね、都度、収支状況を確認しながら、施設の運営に大きな支障が出ないよう、調整を図り適切かつ迅速に経営管理を行った。

#### ■ (人事戦略)

##### ① 雇用環境の整備

・ 職員の雇用条件により、安定かつ継続した雇用が確保されていなかった状況を改善すべく、就業規則の改定等による長期的・継続的な雇用環境づくり(労働環境の整備による職員の長期雇用への切替を含む)、自己評価制度の導入、女性従事者が多い職場ならではの就業環境向上への取り組み等により、職員が安心かつ継続して勤務できる環境づくりを整備した結果、有能な人材を継続的に確保することができ、安定したホール運営を行うことができた。

②職員研修の実施による人材育成

・職場での各テーマに基づいた専門的な研修実施及び外部でのセミナー・講習受講による職員のスキルアップを図った結果、主催事業等の充実や、より安全かつ魅力的な施設運営に反映し、入場者・利用者確保に繋げている。

## 自己評価

持続的なアウトカムの発現・定着が期待できるか。

4年間の「魅力的な事業実績」「安全な施設管理」「安定した施設運営」により、お客様の満足度は高い状態で、継続・維持している。

今後も、収入見込みに近いチケット収入や施設利用料収入（新型コロナウイルス感染症による公演中止の時期を除き）を上げることをベースに、債務負担行為による指定管理料の安定した獲得、事業積立金の実施、効率的な執行等の経営努力による事業経費の削減、事業収入を獲得するための友の会会員の確保、外部資金調達の大きな資金源となる企業や個人からの寄付「ホールスポンサー制度」の拡大、民間企業からの協賛金確保、主催事業実施に伴う助成金の確保など、様々な面からアプローチを図ることにより、健全な収支バランスを保つように努めている。

このような効率的な事業執行等で生じた利益は、将来の利用者サービスのために積み立て、更に利用者サービスや新たな事業実施等に還元することにより、公共ホールとしての役割を果たし、更なるホールファンを増やしていく好循環を生み出していく。

そのことにより、「音楽のまち・かわさき」の拡大や更なる市民の参加につながり、シビックプライドを向上させ、最終的には、川崎市が目指す「最幸のまち・かわさき」と同じく、ミュージア川崎シンフォニーホールの存在が市民の幸せに繋がり、さらに首都圏、全国へと広がっていくものと期待する。

ミュージア川崎シンフォニーホールは、ミッションである「『音楽のまち・かわさき』のシンボルとして、音楽ですべての人がつながるまち～共生社会の実現」を目指し、今後も持続的なアウトカムの発現・定着に繋げていく。